

「問い」を起点に考える 探究学習

本誌6月号の特集では、現場の教師の声を基に整理した、次期学習指導要領を読み解くための視点の1つとして、「探究」が挙げられた。実際、次期学習指導要領では、「総合的な探究の時間」を始め、「探究」と付された科目が複数新設される。それに象徴されるように、今後、探究学習や探究的な活動を取り入れた学びの充実がますます求められることになるだろう。そこで今号では、探究学習とはどのような学びなのか、改めて整理した上で、その実践の状況など、高校現場の実態を踏まえ、探究学習の充実に向けて取り組むべき課題と教師の役割について考えていく。

次期学習指導要領における高校の教科・科目構成 (科目構成等に変更があるものを抜粋)

■…共通必修修 ■…選択必修修 赤字…探究と付された科目 ※グレーの枠囲みは既存の科目

国語科		地理歴史科			公民科	
論理国語	文学国語	国語表現	古典探究	地理探究	日本史探究	世界史探究
現代の国語		言語文化		地理総合	歴史総合	
				倫理		政治・経済
						公共
数学科		理科				
数学Ⅲ	数学C	物理	化学	生物	地学	
数学Ⅱ	数学B	科学と人間生活	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎
数学Ⅰ	数学A					
外国語科						
英語コミュニケーションⅡ・Ⅲ(*1)	論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(*2)					
英語コミュニケーションⅠ(*1)						
		理数科		総合的な探究の時間		
		理数探究	総合的な探究の時間			
		理数探究基礎				
家庭科		情報科				
家庭基礎	家庭総合	情報Ⅱ				
		情報Ⅰ				

*1 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の統合型
*2 スピーチやプレゼンテーション、ディベート、ディスカッション等
※英語力調査の結果やCEFRのレベル、高校生の多様な学習ニーズへの対応なども踏まえ検討

※実社会・実生活から見いだした課題を探究することを通じて、自分のキャリア形成と関連づけながら探究する能力を育むというあり方を明確化する。

*中央教育審議会初等中等教育分科会配布資料(2018年5月15日)を基に編集部で作成

本号のテーマ

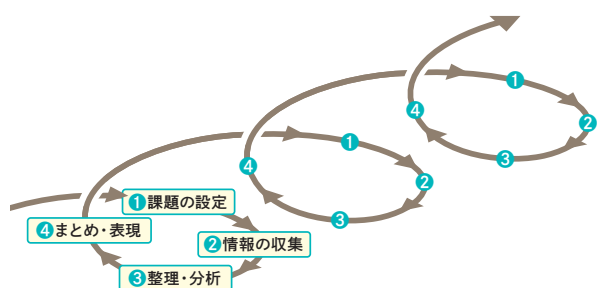
探究学習とはどのような学びか改めて整理し、
生徒が取り組む上での課題や教師の役割について考える

1 探究学習とはどのような学びか、そして現場の実態は？

課題整理【P.4～7】

探究学習とはどのような学びか

◎探究学習とは、生徒が下図の①～④のプロセスを通じた学習活動を発展的に繰り返していく学び。



*文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」を基に編集部で作成

◎教科・科目における「探究」は、当該教科・科目のより深い理解を目的とし、教科の内容項目に応じた課題に沿って行う探究的な活動である。一方、「総合的な探究の時間」等における「探究」は、課題発見・問題解決に必要な資質・能力の育成が目的であり、複数の教科・科目等の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究のプロセスを通して資質・能力を育成する。以上のような違いはあるが、「探究」はすべての教科・科目での展開が求められていると言える。

◎各教科・科目で身につけた資質・能力、探究学習で身につけた資質・能力それぞれが既知の特定の状況においてのみ役に立つのではなく、未知の多様な状況において自在に活用することができるものとなるよう、それぞれを相互に関連づけ、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすることが求められる。

現場の実態は

- ◎ベネッセの調査によると、7割強の学校が探究学習を実施。
- ◎探究学習のプロセスにおいて、約4割の学校が「課題の設定」に課題を感じている。
- ◎推進における主な課題は、「指導の目線合わせ・意識の統一」「指導時間の確保」「指導・コンテンツ準備の負荷軽減」。

2 探究学習における課題にどう取り組むか、教師の役割は？

座談会【P.8～13】



大阪大学
全学教育推進機構准教授
佐藤浩章



宮城県
仙台第三高校
滝井隆太



長崎県・私立純心中学校・
純心女子高校
榎本六秀

生徒が自ら深い課題設定をするための指導とは

- ◎課題設定に必要な「問いを立てる力」を生徒に育成するためには、教師自身にもその力を高めることが求められる。
- ◎教科学習では、習得すべき知識が科学者の研究等によって導き出されたプロセスを生徒に追体験させる問いや、授業・単元の中で一番大事だと思うところを生徒が見つけれられるよう

な問いを立て、生徒の気づきを促す。

- ◎「総合的な学習の時間」や教科の授業において、教師や先輩の問いの立て方を観察し、その後、教師や先輩に手伝ってもらいながら自分で問いを立ててみることを何度も繰り返すことで、最終的には生徒自ら問いを立てられるようになる。

探究学習で求められる教師の役割

- ◎教師は、自分の持つ知識を生徒に効率的に授ける「ナレッジパー」から、生徒が良質の問いを立て、その答えを見つけ出すことを支援する「学びのファシリテーター」への役割転換が必要。

- ◎探究学習の目的や評価の視点、教師の役割について、自校の教師と対話を重ねて共通理解を図り、自分事として捉えてもらう機会をつくることが求められる。



- 1 新潟県立新津高校 【P.14～17】
自分の思考状態を客観的に捉え、何をどう考えるべきか気づかせる
- 2 茨城県・私立聖徳大学附属取手聖徳女子中学校・高校 【P.18～21】
生徒が自ら発する「問い」を大切に、探究し続ける姿勢を育む